

R8年度 国語科シラバス

学科	機械	学年	3	教科名	国語	科目名 [単位数]	言語文化 [2]	授業形態	講義	
教科書・副教材等		104数研/言文104-903 改訂版 新編言語文化								
目 標		国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語力の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。						評価の観点		
評価観点の規準		観点①知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。				観点①知識・技能	観点②思考・判断・表現	観点③主体的に学習に取り組む態度	
		観点②思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。							
		観点③主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとすることができる。							
学期	週	単元名	学習内容	到達度目標						
1	1	古文の世界を楽しむ	言語文化と古文/古文に親しもう	古文の特徴を学び、古文に親しむことができる。	○		○	○		
	2		古文の学習/古典文法	古文の仮名遣いや基礎的な文法について理解することができる。	○		○	○		
	3		宇治拾遺物語 児のそら寝	音読し、古文の読みに慣れ、登場人物の心情の移り変わりを読み取ることができる。	○		○	○		
	4		宇治拾遺物語 検非違使忠明	音読し、古文の読みに慣れ、自身の体験と結び付けて感想を書くことができる。	○	○		○		
	5	地域のことば	とんかつ	方言に触れ、登場人物の人物像と心情を読み取ることができる。	○		○	○		
	6	中間考査				○	○	○	○	
	7	現代にも生きる教え	徒然草 高名の木登り	作者のものの見方について自分の考えを持つことができる。	○		○	○		
	8		徒然草 ある人、弓射ることを習ふに		○		○	○		
	9		動詞・形容詞・形容動詞	古文における活用形について理解することができる。	○		○	○		
	10		助動詞		○		○	○		
	11	受け継がれる名文	羅生門	小説の構成を捉え、登場人物の心情の変化を読み取ることができる。	○		○	○		
	12	日本語の中に生きる漢文	訓読のきまり・格言	格言を通して、訓読の決まりを理解することができる。	○		○	○		
	13	期末考査				○	○	○	○	
2	14	故事と成語	助長	訓読の仕方を確かめながら、「助長」という言葉について理解することができる。	○		○	○		
	15		漁夫の利	訓読の仕方を確かめながら、「漁夫の利」という言葉について理解することができる。	○		○	○		
	16		虎の威を借る狐	訓読の仕方を確かめながら、「虎の威を借る狐」という言葉について理解することができる。	○		○	○		
	17	詩歌を味わう	六月/サーカス	詩歌に描かれている情景や心情を読み取り、実際に詩歌を作成することができる。	○		○	○		
	18		短歌/俳句		○	○		○		
	19	中国の漢詩	春晓～春望	漢詩の形式や表現の特徴について理解を深め、描かれている情景や心情を読み取ることができる。	○		○	○		
	20	中間考査				○	○	○	○	
	21	和歌が作り出す世界	万葉集～新古今和歌集	和歌の表現の特徴について理解を深め、描かれている情景や心情を読み取ることができる。	○		○	○		
	22	昔と変わらない人の心	伊勢物語 筒井筒	和歌に表れた心情を読み取り、和歌の役割を考察することができる。	○		○	○		
	23	平安宮廷文学の世界	敬語	古文における敬語について理解することができる。	○		○	○		
	24		枕草子 はしたなきもの	作者のものの見方について自分の考えを持つことができる。	○	○		○		
	25	「ことば」の力	葉桜と魔笛	小説の構成を捉え、登場人物の心情を読み取ることができる。	○		○	○		
	26	故事と成語	管鮑の交わり	訓読の仕方を確かめながら、「管鮑の交わり」という言葉について理解することができる。	○		○	○		
	27	期末考査				○	○	○	○	
3	28	論語のことば	論語	孔子の考え方を理解し、自分の考えを深めることができる。	○		○	○		
	29	受け継がれる漢文	山月記	小説の構成を捉え、表現の意図を読み取ることができる。	○		○	○		
	30		人虎伝	異なる時代に書かれた素材の小説と読み比べ、その相違点を捉えることができる。	○		○	○		
	31	仮名日記文学の原点	土佐日記	日記文学の特徴を捉え、その表現の意図を捉えることができる。	○		○	○		
	32		漢文日記と仮名日記文学	日記文学の歴史を理解することができる。	○		○	○		
	33	戦乱下の人間像	平家物語	軍記物語を読み、登場人物の心情を読み取ることができる。	○		○	○		
	34		和漢混交文	現代日本語文の歴史について理解することができる。	○		○	○		
	35	学年末考査				○	○	○	○	

評価の方法	・授業観察 ・プリント ・成果物 ・振り返りシート ・ペーパーテスト ・中間考査 ・期末考査 ・学年末考査
-------	---

地理歴史科シラバス

学科	機械科	学年	3	教科名	地理歴史	科目名 [単位数]	歴史総合(2)	担当者名	山崎 悟						
教科書・副教材等		7実教 歴総007-902 歴史総合 新訂版 むすびつく世界と日本						授業形態	講義、演習						
目 標		・近現代の世界と日本の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づいて理解する。 ・諸資料から歴史に関する様々な情報を適切に調べ、まとめることができる。 ・身近な地域と社会全体の関わりについて理解する。							評価の観点 観点①知識・技能 観点②思考・判断・表現 観点③主体的に学習に取り組む態度						
評価観点の規準		観点①知識・技能		世界と日本の近現代史の基本的な事柄を理解し、身につけることができたか。											
		観点②思考・判断・表現		現代社会の諸問題を史資料をみて、課題を適切に読みとることができたか。自分で思考し判断して答えを導き出したか。自分の意見を表現することができたか。											
		観点③主体的に学習に取り組む態度		よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を歴史的に探究しようとしているか。											
学期	週	単元名	学習内容				到達度目標								
1	1	第1編 近代化と私たち 第1章 近代化への胎動	1.江戸時代の日本と東アジア秩序の変動 2.江戸時代の生産・流通と諸改革 3.幕政の改革と東アジア世界				18世紀とその前後の日本やアジアの生産と流通、江戸幕府の4つのロウ周辺地域との貿易について学び、日本から見た東アジアの政治・経済と社会を理解する。	○	○	○					
	2														
	3														
	4	第2章欧米の市民革命と日本の国民国家形成	4.イギリス産業革命とアメリカ独立戦争 5.フランス革命とウィーン体制				18世紀とその前後のヨーロッパやアメリカ大陸、オスマン帝国の生産と流通、アヘン戦争やペリー来航をはじめアジアと欧米諸国の関係などをもとに、世界の政治と社会を理解する。	○	○	○					
	5														
	6	定期考査	中間考査				1学期前半の学習内容を確認する。	○	○						
	7		6.アメリカ合衆国の発展とラテンアメリカの独立 7.オスマン帝国の衰退とロシア 8.アヘン戦争の衝撃と日本の開国 9.江戸幕府の滅亡				18世紀とその前後のヨーロッパやアメリカ大陸、オスマン帝国の生産と流通、アヘン戦争やペリー来航をはじめアジアと欧米諸国の関係などをもとに、世界の政治と社会を理解する。	○	○	○					
	8														
	9														
	10	第3章欧米諸国と日本の国民国家形成	10.イギリス・フランスの繁栄とイタリア・ドイツ統一 11.明治政府の諸改革 12.日本のアジア外交と国境問題 13.自由民権運動と大日本帝国憲法				19世紀後半のヨーロッパの動きと日本の明治政府の政策、日本と欧米諸国の外交関係などをもとに、ヨーロッパと日本の経済と社会を理解する。	○	○	○					
	11														
	12														
	13	定期考査	期末考査及び補充学習				1学期後半の学習内容を確認する。	○	○						
2	14	第4章帝国主義の時代	14.帝国主義の時代へ 15.朝鮮をめぐる国際関係と日清戦争 16.日清戦争後の東アジア 17.日露戦争と東アジアの変動 18.日本の産業革命				19世紀から20世紀初頭にかけての欧米諸国の帝国主義の動き、日本と東アジアの関係、アジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の進出などをもとに、アジアの政治と社会を理解する。	○	○	○					
	15														
	16	第2編 国際秩序の変化と大衆化と私たち 第5章第一次世界大戦と大衆社会	19.第一次世界大戦 20.ロシア革命とソ連の成立 21.米騒動と大正デモクラシー 22.ヴェルサイユ体制とワシントン体制 23.アジアの民族運動 24.第一次世界大戦後の欧米諸国 25.ひろがる社会運動と普通選挙の実現				第一次世界大戦の展開、日本やアジアの経済成長、ソビエト連邦・アメリカ合衆国の台頭、ナショナリズムの動向などをもとに、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解する。 大衆の政治参加と女性の地位向上、大正デモクラシー、大衆文化、マスメディアの発達などをもとに、大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解する。	○	○	○					
	17														
	18														
	19														
	20														
	21		定期考査	中間考査							2学期前半の学習内容を確認する。	○	○		
	22		第6章経済危機と第二次世界大戦	26.世界恐慌と各国の対応 27.ファシズムの時代 28.満州事変と軍部の対立 29.日中戦争と戦時体制 30.第二次世界大戦の勃発 31.第二次世界大戦の終結 32.国際連合の成立と冷戦 33.日本占領と日本国憲法 34.朝鮮戦争と日本							世界恐慌、ファシズムの伸長、日本の対外政策をもとに、国際協調体制の動揺を理解する。 第二次世界大戦の展開、国際連合と国際経済体制、冷戦の始まりとアジア諸国の動向、戦後改革と日本国憲法の制定、日本の独立の回復などをもとに、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解する。	○	○	○	
	23														
	24														
	25														
	26														
	27	定期考査	期末考査及び補充学習				2学期後半の学習内容を確認する。	○	○						
3	28	第3編 グローバル化と私たち 第7章冷戦と脱植民地化	35.植民地の独立 36.米ソ両陣営の動揺 37.日本の国際社会復帰と高度経済成長				植民地の独立と第三世界、冷戦下の地域紛争、先進国の政治の動向、軍備拡張や核兵器の管理などをもとに、国際政治の変容を理解する。 世界経済の拡大と高度経済成長下の日本の社会を理解する。	○	○	○					
	29														
	30	第8章多極化する世界	38.石油危機と世界経済 39.緊張緩和から冷戦の終息 40.日本の経済大国化				石油危機、アジア諸地域の経済発展、市場開放と経済の自由化、情報通信技術の発展などをもとに、市場経済の変容と課題を理解する。 冷戦の終結、民主化の進展、地域統合の拡大と変容、地域紛争の拡散とそれへの対応をもとに、冷戦終結後の国際政治の変容と課題を理解する。	○	○	○					
	31														
	32														
	33	第9章グローバル化と現代世界	41.地域紛争と対立 42.国際秩序の変容				歴史的経緯を踏まえて現代の諸課題を理解する。	○	○	○					
	34														
35	定期考査	学年末考査及び補充学習				3学期の学習内容を確認する。	○	○							
評価の方法		授業での活動状況 出席状況 課題 定期考査													

数学科シラバス

学科	機械科	学年	3	教科名	数学	科目名 [単位数]	数学 I [1単位]	担当者名	因幡 濱	
教科書・副教材等		007実教/数 I 708 高校数学 I						授業形態	講義・演習	
目 標		2次関数の学習を通じて関数概念の基礎を理解し活用しようとする態度を養うとともに、2次方程式・2次不等式の解を2次関数のグラフとの関連を利用して適切に求めることができるようにする。 統計の基本的な考え方を理解するとともに、それを用いてデータを整理・分析し、傾向を把握できるようにする。						評価の観点 観点①知識・技能 観点②思考・判断・表現 観点③主体的に学習に取り組む態度		
評価観点の規準		観点①知識・技能	2次関数のグラフについて理解を深める。 2次関数のグラフから最大値や最小値を求めることができる。 四分位偏差、分散、標準偏差などの意味について理解し、それらを用いてデータの傾向を把握し、説明することができる。				観点①知識・技能 観点②思考・判断・表現 観点③主体的に学習に取り組む態度	観点①知識・技能 観点②思考・判断・表現 観点③主体的に学習に取り組む態度	観点①知識・技能 観点②思考・判断・表現 観点③主体的に学習に取り組む態度	
評価観点の規準		観点②思考・判断・表現	日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、2次関数や2次不等式を問題解決に役立てることができる。 散布図や相関係数の意味を理解し、2つのデータの相関を把握し、説明することができる。							
評価観点の規準		観点③主体的に学習に取り組む態度	学んだことを活用し、問題に取り組もうとしている。							
学期	週	単元名	学習内容		到達度目標					
1	1	第2章 2次関数 第1節 関数のグラフ	1 1次関数とそのグラフ		・具体例を通じて関数の概念を理解する。	○	○	○	○	
	2		1 1次関数とそのグラフ		・関数をグラフ化することにより、関数概念の理解を深める。	○	○	○	○	
	3		2 2次関数とそのグラフ		・原点に頂点がある2次関数のグラフの特徴を理解し、正しくグラフを描くことができる。	○	○	○	○	
	4		2 2次関数とそのグラフ		・y軸方向への平行移動を含む2次関数のグラフを正しく描くことができる。	○	○	○	○	
	5		復習問題		・関数をグラフにかくことに慣れる。	○	○	○	○	
	6	定期考査	1学期中間考査			○	○	○	○	
	7		2 2次関数とそのグラフ		・x軸方向への平行移動を含む2次関数のグラフを正しく描くことができる。	○	○	○	○	
	8		2 2次関数とそのグラフ			○	○	○	○	
	9		2 2次関数とそのグラフ		・x軸およびy軸方向への平行移動を含む2次関数のグラフを正しく描くことができる。	○	○	○	○	
	10		2 2次関数とそのグラフ			○	○	○	○	
	11		2 2次関数とそのグラフ		・2次関数の一般形を標準形に変形し、そのグラフを正しく描くことができる。	○	○	○	○	
	12		2 2次関数とそのグラフ			○	○	○	○	
	13	定期考査	1学期期末考査			○	○	○	○	
2	14		復習問題		・2次関数のグラフについて1学期に学んだ内容に関する総合的な演習をする。	○	○	○	○	
	15		復習問題			○	○	○	○	
	16	第2節 2次関数の値の変化	1 2次関数の最大値、最小値		・定義域が実数全体であるような2次関数について、グラフを利用して最大値または最小値を求めることができる。	○	○	○	○	
	17		1 2次関数の最大値、最小値			○	○	○	○	
	18		1 2次関数の最大値、最小値		・定義域に制限がある2次関数について、グラフを利用して最大値または最小値を求めることができる。	○	○	○	○	
	19		1 2次関数の最大値、最小値			○	○	○	○	
	20	定期考査	2学期中間考査			○	○	○	○	
	21		2 2次関数のグラフと2次方程式		・2次関数のグラフとx軸の交点のx座標が、2次方程式の実数解と対応することを理解する。	○	○	○	○	
	22		2 2次関数のグラフと2次方程式			○	○	○	○	
	23		3 2次関数のグラフと2次不等式		・2次関数のグラフがx軸と2点を共有する場合について、2次不等式の解を正しく求めることができる。	○	○	○	○	
24		3 2次関数のグラフと2次不等式			○	○	○	○		
25		3 2次関数のグラフと2次不等式		・2次関数のグラフがx軸と1点を共有する場合または共有点を持たない場合について、2次不等式の解を正しく求めることができる。	○	○	○	○		
26		復習問題		・2次関数の最大値・最小値、2次関数のグラフと2次方程式・2次不等式に関する総合的な演習をする。	○	○	○	○		
27	定期考査	2学期期末考査			○	○	○	○		
3	28	第5章 データの分析 第1節 データの整理	1 統計とグラフ 2 データの整理		・ヒストグラムや代表値などにより、資料を整理して活用することができる。	○	○	○	○	
	29	第2節 データの分析	1 代表値		・平均値、中央値、最頻値などの用語を理解する。	○	○	○	○	
	30		2 データの散らばり		・四分位偏差、分散、標準偏差などの意味を理解し、データの傾向を把握することができる。	○	○	○	○	
	31		3 相関関係		・散布図、相関係数の意味を理解し、データの相関を的確に捉えることができる。	○	○	○	○	
	32	第3節 コンピュータによる統計処理	1 表計算ソフトウェアによる統計処理 2 グラフの表示		・大量なデータであっても、表計算ソフトを利用して代表値や散布度を求めることができることを知る。	○	○	○	○	
	33	課題学習	課題学習		・課題を通して、既習事項の理解を深め、関心を高める。	○	○	○	○	
	34	課題学習	課題学習		・主体的に取り組む、数学の良さを認識する。	○	○	○	○	
	35	定期考査	学年末考査			○	○	○	○	

評価の方法	出席状況 授業観察 課題プリントの取り組み状況 定期考査
-------	---------------------------------------

理科シラバス

学科	機械科	学年	3	教科名	理科	科目名 [単位数]	科学と人間生活 (2単位)	授業形態	講義・演習・実験	評価の観点			
教科書・副教材等		2 東書 科人 002-901 「改訂 科学と人間生活」									観点① 知識・技能	観点② 思考・判断・表現	観点③ 主体的に学習に取り組む態度
目 標		<ul style="list-style-type: none"> ・自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する技能を身に付ける。 ・観察や実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究する力を養う。 ・自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。 											
評価観点の規準		観点①知識・技能		基本的な概念を人間生活と関連付けて理解し、観察・実験等の基本的な技能を身に付けている。									
		観点②思考・判断・表現		問題を見だし見通しをもって実験等を行い、人間生活と関連付けて科学的に考察し表現している。									
		観点③主体的に学習に取り組む態度		科学的事項に主体的に関わり、見通しをもったり振り返りするなど、科学的に探究しようとしている。									
学期	週	単元名	学習内容	到達度目標									
1	1	科学技術の発展		・科学技術の発展が今日の人間生活に対してどのように貢献してきたか理解する。	○	○	○						
	2	1編 生命の科学 1章 微生物とその利用	1 さまざまな微生物	・身の回りの微生物や生態系における微生物の役割について理解する。 ・微生物と窒素との関係を知り、肥料の重要性について考える。 ・微生物と環境の浄化を理解し、その利点を考える。	○	○	○						
	3		2 私たちの暮らしへの微生物の利用	・発酵食品が微生物のはたらきによって作られることを理解する。 ・酵母による発酵の反応について調べ、食品の製造に利用されていることを理解する。	○	○	○						
	4												
	5												
	6												
	7		定期考査	1学期中間考査	・前時までの学習状況について自己評価する。	○	○	○					
	8			・微生物やウイルスの発見の歴史を理解する。 ・抗生物質の発見の歴史を理解する。 ・学習した内容を確認テストで確かめる。	○	○	○						
	9		学習内容の整理と章末確認テスト										
	10	2編 物質の科学	1 リサイクルとは何か	・資源の再利用について知り、問題を見出す。	○	○	○						
	11	2章 材料とその再利用	2 金属の性質とその再利用	・金属の性質と構造について理解する。 ・周期表と原子の電子配置の関係について理解する。	○	○	○						
	12												
	13	定期考査	1学期末考査	・前時までの学習状況について自己評価する。	○	○	○						
2	14			・金属の製錬方法と用途について理解する。 ・金属の再生方法の種類と違いについて理解する。	○	○	○						
	15												
	16	3 プラスチックの性質とその再利用		・プラスチックの性質、種類、構造について理解する。 ・プラスチックの再生利用の重要性について考える。 ・様々な機能を持つプラスチックを知り、それらと人間生活との関わりについて考える。	○	○	○						
	17												
	18												
	19	定期考査	学習内容の整理と章末確認テスト 2学期中間考査	・学習した内容を確認テストで確かめる。 ・前時までの学習状況について自己評価する。	○	○	○						
	20	3編 光や熱の科学 1章 光の性質とその利用	1 光の進み方とその基本的な性質	・光の進み方に関して、反射や屈折、全反射について理解する。 ・光の分散とスペクトルについて理解する。 ・光は、回折と干渉という波特有の性質を持つことを理解する。 ・偏光について理解する。	○	○	○						
	21												
	22												
	23												
24	2 目に見える光と色の見え方		・物体の色がどのように生じているかについて、人の視覚と関連付けて考える。	○	○	○							
25	3 目に見えない光とその利用		・電磁波という概念で、可視光線や赤外線、紫外線、電波、X線などの関係を理解する。 ・可視光線以外の性質とその利用について理解を深める。	○	○	○							
26													
27	定期考査	学習内容の整理と章末確認テスト 2学期末考査	・学習した内容を確認テストで確かめる。 ・前時までの学習状況について自己評価する。	○	○	○							
3	28	4編 宇宙や地球の科学 2章 太陽と地球	1 太陽と月がもたらすリズム	・地球の自転と公転によって、1日や1年が定義されていることを理解する。 ・月の見え方とひと月、暦の関係を理解する。 ・潮位の変化による現象を知り、潮位の変化の規則性について考察する。 ・潮位の変動の周期性について理解する。	○	○	○						
	29												
	30												
	31	2 太陽が動かす大気と水		・太陽活動や太陽の放射エネルギーについて理解し、地球温暖化について考える。 ・大気の大循環や風が作る海洋の循環について理解する。 ・気圧分布や大気の流れと各季節の気象との関係を理解する。 ・台風の発生場所と経路の特徴について考察し、台風等による災害について理解する。	○	○	○						
	32												
	33												
	34												
	35	定期考査	学習内容の整理と章末確認テスト 学年末考査	・学習した内容を確認テストで確かめる。 ・前時までの学習状況について自己評価する。	○	○	○						

評価の方法

- ・出席状況、行動観察
- ・ワークシート(取り組み状況含む)
- ・定期考査
- ・観察、実験

保健体育科シラバス

学科	機械	学年	3	教科名	保健体育	科目名 [単位数]	体育[2]	授業形態	演習 講義
教科書・副教材等		現代高等保健体育(50大修館 保体701)							
目 標		各種の運動の合理的な実戦を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて、継続的に運動ができる資質や能力を育てる。						評価の観点	
評価観点の規準		観点①知識・技能		実践競技でのルールや運営の仕方など、全員が楽しむための調整の仕方があることを理解できる。				観点①知識・技能	
		観点②思考・判断・表現		動きの習得に適した練習方法を選び、話し合い、自分の考えを仲間伝えることで皆が納得することができる。				観点②思考・判断・表現	
		観点③主体的に学習に取り組む態度		一人一人の挑戦を認め、仲間を称え、助言することで信頼関係を深め、互いに高め合うことができる。				観点③主体的に学習に取り組む態度	
学期	週	単元名	学習内容	到達度目標					
1	1	体づくり運動	オリエンテーション及び体づくり運動	教科の意義、1年間を通じて、授業に対する注意事項を理解する。集団で行動するために必要な集団行動を身に着ける。体力の現状を把握し体力要素の意味を理解して、体力改善に生かす。スポーツテストの種目練習、その体力要素に関する体力を高める運動を通じて、各体力の要素を高める。	○	○	○		
	2				○	○	○		
	3				○	○	○		
	4				○	○	○		
	5	定期考査	1学期中間考査		○	○	○		
	6	フレッシュテニス	ルール サービス レシーブ ゲーム	ネット型のゲームの特性を理解し、相手の動きや球種に応じた作戦を立て、シングルス及びダブルスのゲームができるようにする。ダブルスに関する技能としては相手の球種に対応するためのお互いの位置取り方などパートナーとの連携などでの自己の役割を理解し、ゲームで生かせるようにする。個人的技能としては、フォアハンド、バックハンドによるロング、ショート、カットなどの打法、サービス、レシーブなどを身に着けるようにする。	○	○	○		
	7				○	○	○		
	8				○	○	○		
	9				○	○	○		
	10	球技大会	フレッシュテニスで技能、戦術、加えてチームへの協力、大会運営にも積極的に参加する。	○	○	○			
	11	体育理論	スポーツの技術と戦術	スポーツにおける技術と技能の違い、クローズドスキルとオープンスキルの違い、戦術・作戦・戦略の違いについて理解し、説明することができる。	○	○	○		
	12				○	○	○		
	13	定期考査	1学期期末考査		○	○	○		
2	14	体づくり運動	オリエンテーションおよび体づくり運動	体育に関する意義、注意事項を理解する。長期休業後において、体ほぐし運動で、体の調子を整えるようにする。	○	○	○		
	15				○	○	○		
	16	ダンス	創作ダンス	現代的なリズムに乗ってリズムカルに身体を動かし、身体の解放感を味わい仲間と交流することができるようにする。	○	○	○		
	17				○	○	○		
	18	マット運動	前転 開脚前転 伸膝前転 倒立前転	自己の能力に応じて技を選択し、習得し、それらの技を組み合わせて連続技とする。また、技を改善したり、技を新たに追加したり、演技の内容を豊かにする。	○	○	○		
	19				○	○	○		
	20	(定期考査)	2学期中間考査		○	○	○		
	21	バドミントン	基本技能 応用技能 審判法 ゲーム	ラケットやシャトルを使うネット型ゲームの特性を理解し、ハイクリア、スマッシュ、ドロップ、ドライブ、ヘアピンなどのフライを使い分け、相手の動きやフライに対応したシングルの試合展開ができるようにする。	○	○	○		
	22				○	○	○		
	23				○	○	○		
24	○				○	○			
25	体育理論	生涯スポーツの見方・考え方	社会の変化にともなうスポーツの役割と楽しみ方の変化を理解し、ライフステージに対応したスポーツの楽しみ方について、基礎的な事項を理解している。	○	○	○			
26				○	○	○			
27	定期考査	2学期期末考査		○	○	○			
3	28	体づくり運動	オリエンテーションおよび体づくり運動	体育に関する意義、注意事項を理解する。長期休業後において、体ほぐし運動で、体の調子を整えることができるようにする。	○	○	○		
	29				○	○	○		
	30	バスケットボール	個人技術 オフェンス技術 つなぎの技術 ディフェンス技術 ゲーム	ゴール型のゲームの特性を理解し、集団技能や個人的技能を活用して学習段階に応じて作戦を立て、ゲームをする。集団的技能としては、速攻、セットオフェンス、マンツーマンディフェンス、ゾーンディフェンス等での自己の役割を理解し、ゲームで生かす。個人的技能としては、パス、キャッチ、ドリブル、シュート、フットワーク、フェイントなどを身に着ける。	○	○	○		
	31				○	○	○		
	32				○	○	○		
	33	選択制体育	日本のスポーツ振興	現在に至るまでの日本のスポーツ振興の流れや地域におけるスポーツクラブの状況について理解し、説明することができる。	○	○	○		
	34				○	○	○		
	35	定期考査	学年末考査		○	○	○		

評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・出席状況 ・授業でも活動状況 ・自作課題プリントの取り組み状況 ・定期考査
-------	---